

令和2年度病害虫発生予察予報10号（令和3年1月）

令和3年1月7日

高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 タバココナジラミ 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	やや少(中央)、少(中西、西) 平年並(中央)、やや少(中西)、少(西) <u>やや多(県下全域)</u> <u>多(中西、西)</u> 、少(中央) <u>やや多(中西)</u> 、やや少(中央)、少(西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ タバココナジラミ	少(県下全域) <u>多(中央)</u> 、平年並(西)、少(東) 少(県下全域) やや少(東)、少(中央、西) <u>やや多(西)</u> 、やや少(中央)、少(東)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ タバココナジラミ	<u>やや多(東、中西)</u> 、平年並(中央) 平年並(中央)、少(東、中西) <u>多(東)</u> 、少(中央、中西) <u>やや多(中央)</u> 、少(東、中西) 平年並(中央、中西)、少(東) やや少(中西)、少(東、中央)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ ハスモンヨトウ	少(中央) <u>やや多(中央)</u> 少(中央) 少(中央) <u>やや多(中央)</u>

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
 なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報（高松地方気象台12月31日発表）

＜特に注意を要する事項＞

期間の前半は気温がかなり低くなる可能性があります。

＜予想される向こう1か月の天候＞

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、低い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率70%です。2週目は、低い確率50%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	50	30	20
		降水量	40	30	30
		日照時間	30	30	40

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	70		20 10
2週目		50	30	20
3～4週目		30	30	40

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：1月2日（土）～2月1日（月）

1週目：1月2日（土）～1月8日（金）

2週目：1月9日（土）～1月15日（金）

3～4週目：1月16日（土）～1月29日（金）

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：やや少（中央部）、少（中西部、西部）

根 拠

(1)12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりもやや少なく、その他の地域は少なかった。発病程度は中央部で平年よりもやや低く、その他の地域は低かった。

(2)厳寒期の病勢進展は少ないため、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：平年並（中央部）、やや少（中西部）、少（西部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年並、中西部で平年よりもやや少なく、西部で少なかった。発病程度は中央部で平年よりもやや低く、その他の地域は低かった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（県下全域）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は各地域とも平年よりも多かった。発生程度は西部で高く、他の地域は平年よりもやや低かった。
- (2) 厳冬期で増殖が緩慢になるため、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：多（中西部、西部）、少（中央部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、既発ほ場を中心に発病株の増加が見られた。発生面積は県中西部、西部で平年よりも多く、中央部では少なかった。
また、発病程度は西部で平年よりも高く、その他の地域は平年並であった。
- (2) 厳寒期であり、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が緩慢なことや、野外から施設内への飛び込みもないので、新たな発生は少ないと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多（中西部）、やや少（中央部）、少（西部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られ、中西部では発生面積が平年よりも多く、発生程度も高かった。中央部では発生面積は平年並、発生程度は低かった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になるため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 例年2月に入ると発生が増加し始めるので、特に、既発ほ場では、この時期に防除を徹底する。

(2) 本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られたが、各地域とも発生面積は平年よりも少なく、発病程度も低かった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多（中央部）、平年並（西部）、少（東部）

根 拠

(1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で平年よりも多く、西部で平年並、東部で少なかった。発病程度は各地域とも平年並以下であった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 12月の調査では、県東部と中央部で発生を認めたが、両地域ともに発生面積は平年よりも少なく、発生程度も低かった。

(2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

(1) 本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや少（東部）、少（中央部、西部）

根 拠

(1) 12月の調査では、県東部で発生が見られ、発生面積は平年並、発生程度は平年よりも低かった。

(2) 厳寒期は増殖が緩慢になることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) ジアミド剤(フェニックス顆粒水和剤、プレバソンフロアブル5など)の効果が低下した個体群がいる可能性があるため、防除薬剤の選定に注意する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(西部)、やや少(中央部)、少(東部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部で平年並、東部でやや少なかった。また、発生程度は西部で平年よりもやや高かったが、他の地域は平年並以下であった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多(東部、中西部)、平年並(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は、県東部と中西部で平年よりもやや多く、中央部で平年並であった。また、発病程度は各地域とも平年よりもやや低～低かった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：平年並(中央部)、少(東部、中西部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積は平年並、発病程度は平年よりも低かった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多（東部）、少（中央部、中西部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県東部と中西部で発生が見られ、発生面積は東部で平年よりも多く、中西部では少なかった。発病程度は東部で平年よりも高く、中西部で低かった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多（中央部）、少（東部、中西部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、東部で少なかった。発生程度は両地域ともに平年よりも低かった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 例年2月に入ると発生が増加し始めるので、特に、既発ほ場では、この時期に防除を徹底する。
- (2) 本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：平年並（中央部、中西部）、少（東部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られ、発生面積は両地区とも平年よりやや多かったが、発生程度は平年並以下であった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) ジアミド剤（フェニックス顆粒水和剤、プレバソンフロアブル5など）の効果が低下した個体群がいる可能性があるので、防除薬剤の選定に注意する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少（中西部）、少（東部、中央部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で見られたが、いずれの地域も発生面積、発生程度ともに平年並以下であった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生は見られなかった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生面積は平年よりもやや多かったが、発病程度は低かった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、先月からの発生面積の増加はなかったが、既発ほ場で発病株の増加がみられた。
- (2) 厳寒期であり、本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖が緩慢になることや、野外から施設内への侵入がないことから、新たな発生は少ないものと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生は見られなかった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、この時期、野外から施設内への侵入は無いため、発生は少ないと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

5) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 12月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発生程度も高かった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、この時期、野外から施設内への侵入は無いため、発生は減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) ジアミド剤(フェニックス顆粒水和剤、プレバソンフロアブル5など)の効果が低下した個体群がいる可能性があるので、防除薬剤の選定に注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫 etc.